

## 総合知を拓く大学として未来へ



特別寄稿

熊ノ郷 淳\*

University Fostering Integrated Wisdom for the Future

Key Words : The University of Osaka, UOsaka, integrated wisdom,  
social transformation, co-creation

2025年4月より、大阪大学総長を拝命いたしました。私は大阪大学医学部を卒業後、免疫学を専門とし、自己免疫疾患や感染症に対する生体応答の解明、治療法の開発に携わってまいりました。医師として臨床に従事し、研究者として基礎医学の探究に没頭し、また教育者として多くの若い才能を育ててきた経験の中で、大学という場が持つ可能性を日々実感してきました。

そのうえで今、私は大阪大学という総合大学の未来を託される立場となり、改めてこの大学が有する「知の力」と「人のつながり」の重要性を再認識しております。大学とは、知識を伝えるだけでなく、新たな知を生み出し、それを社会と共有しながら未来を築いていく場です。特に大阪大学は、その歴史と立地から、実学と基礎学、そして産業界・地域社会との結びつきの中で発展してきました。

本学の源流は、1838年に緒方洪庵が開いた蘭学塾「適塾」に遡ります。当時、全国から志ある若者が大阪に集い、自由闊達な雰囲気の中で蘭学・医学を学びました。この「学問の府」としての精神は、1931年に創設された大阪帝国大学、そして現在の大阪大学に脈々と受け継がれています。都市型大学としての性格をもつ本学は、常に社会や産業の動きと呼応しながら、現代的な課題に立ち向かう実践知を育んできました。

本学が掲げる「地域に生き世界に伸びる」という理念は、第11代総長・山村雄一先生の時代に策定されたものですが、今もおその普遍的な意義を保ち続けています。私はこの理念を、21世紀の課題に即した形で再構築していきたいと考えています。すなわち、地域に根差しながらも、世界に貢献する知と人を育む「共創」の場としての大学をめざします。

大阪大学では現在、分野の枠を越えた「総合知」の創出に取り組んでいます。理系・文系、基礎・応用といった従来の区分を越えて、課題解決志向の研究を推進しています。特に、感染症や地球環境、エネルギー、少子高齢化といった現代社会の複雑な課題に対しては、多様な視点と専門性を融合した「知の統合」が求められます。この実践的な取り組みの一つが、2024年度に竣工した「大阪大学・日本財団 感染症センター」です。本センターには、ワクチン開発拠点 CAMaD や感染症総合教育研究拠点 CiDER など、基礎から臨床・社会実装に至る研究・教育機関が集結しており、産官学の連携による革新的な医薬品開発や社会への科学的エビデンスに基づく総合的な情報発信、医療従事者への最新技術・知識の教育訓練、そして感染症対策リーダーの育成を担うなど感染症制御のハブとなっています。このように、大学が社会課題に対して即応性と継続性をもって取り組む姿勢は、今後ますます重要になるでしょう。

また、大学の国際化も重要な柱です。大阪大学は国際拠点大学としての展開を進めており、アジアをはじめとする世界各地の大学・研究機関とのネットワークを拡充しています。とりわけ人材交流、ダブルディグリープログラム、多言語リベラルアーツ教育などを通じて、多文化共生とグローバルな価値観を体得した人材の育成に注力しています。こうした取り組みを支えるのは、多様な人材です。若手研究



\* Atsushi KUMANOGOH

1966年5月生まれ  
大阪大学大学院医学系研究科 (1997年)  
現在、大阪大学総長 医学博士  
専門/内科学・免疫学  
TEL : 06-6879-5111  
E-mail :  
kumanogo.atsushi.hq@osaka-u.ac.jp

者が自らのアイデアで挑戦できる環境、女性研究者・海外研究者が活躍できる制度、そして社会人・留学生も巻き込んだ「知の開かれた循環」が必要です。私は、大学を「閉じられた学問の場」から「社会と交わる創造の場」へと転換させていくことが、自らの使命であると考えています。

今後、大阪大学は、学術研究、教育、人材育成、社会実装の各側面で一層の飛躍を図り、「総合知による社会変革」を実現してまいります。そのために

は、産業界、自治体、教育界、そして市民の皆さまと連携し、共に未来を拓く姿勢が不可欠です。大阪という都市のもつダイナミズムと、大阪大学が有する多様性・包摂性・創造性を融合させながら、「知と人の集積拠点」としての大学の新しい姿を築いていく決意です。

皆さまの引き続きのご支援とご助言を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

